

事務局だより

1. 3月1日現在の会員数

県央の児嶋 裕太様が2023年12月にご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
41	33	30	30	134名 (Eグループ会員：118名)

退会者 高木 輝夫氏 (ベイサイド) 児嶋 裕太氏 (県央) 加藤 一雄氏 (県央)
野木 幹夫氏 (県央)

2. 運営委員会より

第33回通常総会について

コロナ禍を乗り越え、今年も昨年に続き、第33回通常総会をオルタ館にて対面で開催します。総会終了後には、ささやかですが懇親会(会費1,000円)を開催します。総会と懇親会が地域じゃおを超えた交流の機会となるよう願っております。

開催日：5月26日(日)

総会：13:00～14:30

懇親会：14:30～16:00

場所：オルタナティブ生活館 オルタリアン



協議事項

要点は以下の通りです。詳細は議事録をご覧ください。

- 1) 第33回通常総会関連の各種文書(議案書、付属資料、案内状など)の作成方針を確認しました。また、通常総会の案内から議決権行使、開催当日の運営について議論、大枠を決定しました。
- 2) HPサークルより申請があった試行を目的とした「サークルスクエア」の有償契約を承認しました。

HPサークルは、ホームページを「会員向け」と「一般向け」に分ける方向で進めており「会員向け」に「サークルスクエア」を選択しました。今後、有償契約した上で試行を始め、じゃおクラブの目的に合っているかを確認します。試行は、最初に「予定表」を置き換えることから始め、その他の機能も確認・検討します。

3. 次回の運営委員会

日時：2024年5月26日(日) 10:30～12:00 オルタ館 203会議室

議長：福山委員、書記：増子委員

移住の記—その2

佐賀県小城（おぎ）市小城町 県央 前田 康行

70歳過ぎて家を建てる—後編

2年前、相模原市から故郷に移住後、まあまあ快適な日々を送っておりましたが、しかし、そうそういいことばかりじゃありません。なんせこの古家、築100年の古家でそうとうあちこちにガタが。本稿前編の写真でお分かりの通り、すぐ裏が山ということもあるのか、夏はムカデ、イエ蜘蛛等虫が多くて閉口しました。冬は冬で、隙間風と土壁一枚の外壁のため、家の中の寒さが尋常でなく、一冬を過ごしてみても、これじゃあ長生きできんかも、ヒートショックで死ぬかも、なんて思ったりしました。あ、そうそう、移住1年目の秋には天井裏にアライグマが住み着いて往生しました。これはさすがに専門の業者さんに来てもらって、侵入口を塞ぐとかの対応をしてもらいましたが。

家が古いのは承知で購入したんだし、我慢すればいいか、と覚悟を決めたつもりではあったんですが、時がたつにつれ、死ぬまでこの家かあ、これが「終の棲家」になるのかあ、などとつらつら考えるようになってきて。このままだとなんだか悲しいよなあ。とまあ、そんなこんなの思いを経て、2回目の冬を前に、よし、この古家を壊して家を建てようと思いついたわけですよ、無謀にも。20坪ぐらいの平屋だったらいけるんやないやろうかと。

まず、業者探し。なんせ移住者ですから地元の情報なし。そこで、移住に際してお世話になった県庁や市役所の方に聞きましてね、教えてもらった地元の工務店さんを訪ねました。その工務店さんの話で、昨今の世界的な紛争や円安やらで資材が高騰し、諸々の値段がコロナ禍以前の1.5倍ぐらいになってるとか。金属は2倍だそうです。地元の工務店さんの場合、新築住宅の坪単価が70-90万円、大手の住宅メーカーだと120-150万円だそうです、ひえー、です。この歳でローンなんか組めませんし、腹積もりの20坪の新築住宅なんてとても無理。古家をリノベーションしたら安上がりなんじゃないかと聞いたら、築100年の相当古い家なんで、まずそもそも基礎から手を加えなければならないこと、躯体を生かしてとなると、材の扱いに慎重を期さねばならず、またそれがそのまま使えるわけではないから加工し直なければならないこと、したがって手間が相当にかかることなどなどのため、むしろ新築よりも費用がかさむとのこと。なるほど、そういうものかと納得。ということで、新築計画はあえなく頓挫。さてどうするべ。

ここで神のご加護が。幸いなことに、家の脇の車庫にしている小屋が、平成の築で新しかったんですよ。基礎もしっかりしてましてね、工務店さんから、これをリフォームしたらどうでしょうと提案がありました。10坪ちょっとと狭いけれども、持ってるお金をかき集めればなんとかなりそうだし、一人暮らしの年寄りにはそれぐらいでまあいいか、とその案に乗ることにしました。で、できあがったのが写真の小さな家です。間取りとしては1DK、狭いですよ～。それでも年寄りの一人暮らしには十分です。先々の車いす生活を想定して、玄関、トイレ、お風呂などは広くし、玄関ポーチにはスロープを作ったり。ただ、なんせ小さな家です、家具を置くスペースはありませんので、いたるところに棚を作りましてね、壁という壁は棚だらけです。年明け早々から住み始めましたが、これがなかなか快適！古家とは比べるのも愚かなほどの住み心地の良さ。高気密、高断熱ですもん！狭いから動線が短くて家事全般が楽。暖房がよー効いてガスファンヒーター一つで十分。これなら夏もエアコンがよー効くだろうから光熱費も安くなりそう。これで安心して暮らせます。



ちなみに古家は解体しました。この解体費用がバカ高くてこれまたびっくり。家を解体した時の廃棄物は産業廃棄物になるのだそうですが、今のご時世、法律に則って適正に処理しなければいけないため費用がかなりかかるんだそうです。一般住宅の解体費用が坪当たり5-6万円だそうで、この解体費用もあつて、小さな家にせざるを得なかったという事情もあるんですよ。いずれにしろ、古い家を残すと負債になるので、なんとか壊せてホッとしております。ただ、壊した跡地をどうするかで新たな悩みが。

いずれにしろ納得のいく終の棲家ができました。寿命が延びそうです。

写真上：車庫をリフォームして作った新居 1DK の可愛い家ですが、高气密、高断熱で快適。右手前にちらっと見えるのが古家を壊した跡地でして 50 坪ぐらいはありそう。

写真右：2023 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ：2023 年 11 月 5 日会場近くで。なかなか壮観！



「カメムシ」

県央 今村 義宏

昨年は 9 月後半になっても猛暑日が続いたせい、毎年やってくるカメムシが 10 月以降も異常に多かった。農作物以外には特に害のある虫ではないが、毎晩、網戸に張り付いているのを見るとさすがに気になり、対策などをちょっと調べてみた。2023 年は全国的にもカメムシが異常発生し、稲作の被害は甚大であったとメディアでも報告している。関西では緑色のカメムシが優勢らしいが、私のところでは、写真のクサギカメムシしか見ない。幼虫の時から杉や檜（ひのき）の実を餌とするので、自宅の近くにある檜林にすんでいて、明かりに誘われて飛んでくるのだろう。この昆虫は身の危険を感じると悪臭を放つので知られているが、網戸を揺らすだけでも匂うので、かなり敏感なセンサーをもっているようだ。夜間、カメムシは光誘因で飛んでくるが、波長の短い紫外線に最も引き付けられるので、赤やオレンジ LED ライトなど長波長側の光源を使うのが効果的とされる。網戸の外に付いたカメムシは、部屋の内側から指先で弾くとポンと落ちて、どこかへ行ってしまふ。温暖化で冬の期間が短くなり、越冬する個体が増えているらしい。地球温度が 1℃上がるくらいで、自然界には想像できないような異変が起こりうることを示す身近な例として心に留めておきたい。



アリアに魅せられて

ベイサイド 伊志嶺 朝重

私はカラオケ大好きな人間です。JAOでは毎月第3木曜日に率川さんのお世話で、新杉田でJAOのカラオケ愛好家、それに歌好きのご婦人方を交えてカラオケを楽しんでいます。それも一杯飲み、料理を食べながら。

そこでふと思い出したのが、10年ほど前ローマの歌劇場での生の迫力あるアリアです。そうです、ブッチーニ作曲のオペラ「トスカ」のアリア「星は光りぬ」です。あの哀愁を帯びた恋人への切実な恋心を歌ったアリアです。で、これを柄にもなく自分でも歌えないかとボイストレーニングの教えを乞うことにして、先生の門を叩きました。月に2回程レッスンを受けています。鼻、口から息を吸い込んで、その空気を腹から出してのどを通して口から出すのです。最初は難しかったのですが、これも訓練



となれです。最近では自分でも気持ち良くのどから声が出ていると思うようになりました。そして感じたことは歌うには精力がいる、健康でなければ歌えないということです。

モテたい男のボイストレーニング、顔の悪いプレーボーイはいても、声の悪いプレーボーイは稀だ。モテたければ声を鍛えて、女性の臓器に低く静かに響き渡る声を得るべきだと。

皆さん、カラオケにご参集下さい。そこからが第一歩です。

会員だより「季節のテーマ」執筆のご参考

事務局からのご案内です。会員だより投稿のご参考として「季節のテーマ」の一部（4月から9月）を掲載します。皆様の執筆のご参考になれば幸いです。

4月	お花見、エイプリルフール、入園・入学・入社、花まつりなど
5月	こどもの日、運動会、ゴールデンウィーク、母の日、お祭りなど
6月	父の日、梅雨、夏至など
7月	七夕、お中元、土用の丑の日、暑中見舞い、暑気払いなど
8月	夏休み、夏祭り・花火、お盆、花火大会、プール・海水浴など
9月	防災の日、敬老の日、十五夜、お彼岸・秋分の日、秋祭りなど

農園日記—仲春雑句—

2月28日(水)、快晴 富士山が美しい。先週続いた雨でじゃお農園は生き返ったように元気だ。遅植えのたまねぎやキャベツは春の日を受けて輝いている。Hさんが栽培した土手のクローバーは青々と群生して腰を下ろすのを憚れるほどである。畑だけではない。ハウスの裏に敷かれた鉄板の隙間かられんげ草が生えているではないか。冬を乗り切った植物の強さに感動する私だった。

クローバーに座すを憚る農夫かな

敷板の隙間に生ゆる紫雲英かな

※ 紫雲英（げんげ）とは、れんげ草のこと。



今日のメインの作業は「じゃが芋の植付」である。種イモは「きたあかり」「メーカーイン」「男爵」の3種類で数量は全体で20キロである。いずれも小振りの種芋なので、包丁で切分け、切り目に灰をつける作業は省略できた。

まず畝づくりだ。紐を張って畝の寸法をきめて土を適当な高さに盛る。種イモが植えやすいように土を馴らすと、種芋を畝の中央に30cm間隔で置いてみる。1畝に置かれる種芋の数から、畝の数がきまる。1畝に約40個だったので8畝を作った。

次は種イモの植付だ。深さ約10cmの穴を掘り芽を上向きにして種芋を置き、土を被せる。保温と保湿、雑草防止のためにマルチを掛ける。一人が畝の上にマルチを被せながら移動するとマルチの端を足で踏み込みながら両側から二人が同時に鍬を使って土をかけ固定していく。この作業をしっかりとやらないと強風でマルチが飛ばされてしまう。

手に鍬をマルチ踏み込む春日かな

3月2日(土)、晴 1号畑の主な仕事は「収穫」と「畑づくり」だ。「九条ねぎ」を収穫した。15年前、ねぎ嫌いの孫がじゃおのねぎだけは食べたという。そのねぎが「九条ねぎ」である。実にうまい。「畑づくり」ではAさんが運転する耕運機が大活躍だ。畑が掘り起こされるとハクセキレイだろうか、つがいが飛んで来て何やら啄んでいる。暖かくなってミミズが出てきたのだろう。作業の手を休めてしばし仲春の風景を愛でる私だった。

啓蟄の畝を啄む番鳥

※ 啓蟄（けいちつ）とは二十四節気の一つで暖かくなって冬眠していた虫等が出る頃をいう。

(湘南 島村 忠男 記・写真)



2023 年度みかん園管理と、みかん農家への援農

定例の早生ミカン、温州ミカンの収穫はコロナウイルスの感染が一段落したとの政府発表を受け、10月末に1回実施した。この2年間で、急にミカンの木が枯れだして、数本を失ったが、参加者（県央、多摩・田園）十数名が各自数キロずつ持ち帰る程度は収穫できた。枯死の原因について、地元のミカン農家川野さんに相談したが、「おそらく土壌細菌だろうが、有効な対策はない」。川野さんの木も、若い木が2本ほど枯れたとのことであった。ミカン園主の伊藤さん（川崎市在住）には約7kg送付した。12月は定例の川野家の援農を行い（12月13、14日）、各日10名の参加（県央、多摩・田園、湘南より）があった。お礼として収穫袋1杯（7kg強）ずつを持ち帰った。甘夏収穫は例年3月中旬過ぎに行っていたが、温暖化のせいか熟れ具合が早く、当初2月の収穫を計画していた。しかし、2024年2月は天候が極めて不順で、再々の延期となり、3月4日に実施した。甘夏収穫を15名（県央10名、多摩・田園5名）で行い、各自約8kgを持ち帰った。伊藤さんにも数キロを発送し、2023年度のミカン収穫を終えた。木の枯死についても伊藤さんに報告し、「現状維持で結構です」との返事を得ている。

（県央 今村 義宏 記）

ようやく開催されたみかん狩り紀行

今回のじゃおクラブ県央での定例みかん園管理は、天候不順が続いた影響により2回の開催日延期を経て、3月4日(月)に漸く晴天に恵まれての開催となりました。

参加者はいつもの小田急線渋沢駅に集合し、車に便乗する人と散策を兼ねて駅から健脚を生かし歩いてみかん園迄行く人に分かれての組、直接現地に車で参加する人で総勢15名（県央10名、多摩・田園5名）の開催でした。

私は、途中の駐車場迄便乗させて頂いた後、みかん園までの散策では寒さも感じなく青空と爽やかな風と丹沢山系に抱かれた緑豊かで静かな田園風景を楽しみ、遠くからの神奈川大井射撃場の射撃音を耳にしながらの道程でした。

今回は、早生みかんとキウイの収穫は既に終えているので、甘夏とオレンジの収穫管理が主体で果汁が多い花ユズも一部収穫です。

到着時、みかん園の入る道に強風で倒されたのか10メートルあろうかという巨木が倒れており道を塞いでいたのには驚かされました。腕自慢の人達で早速と電動鋸で解体取り除き綺麗に処理されました。それと同時に、参加者みんなで会食場テント設営、火起こしとみかん挽ぎ作業の準備を行い作業開始です。

甘夏の木は一部立ち枯れた枝も見受けられ、また、既に地面に相当数の落下している甘夏が目につきましたが木全体にはびっしりと果実が鈴なりで、木の大きさは思ったより高く、脚立に登っての挽ぎ取りや高所用高鉋を利用しての挽ぎ取りで、手持ち鉋での直接の挽ぎ取



りは難しい作業でした。

登った木から下に落とす人、下に落されたみかんを集める人、集めたみかんは参加者全員が夫々持ち帰られるよう小袋に分けて整理するなど、みんなで手分けしての収穫作業でした。昼食時間は、参加者全員で設営した即席の宴会で各自持参の弁当や飲みものと収穫した甘夏を頂き、会話も弾んで楽しいひと時を過ごしました。

今回は、一人3袋(約2.7キロ/袋)をリュックサックに入れて重い収穫土産での帰途となりました、来シーズンも同様の豊作を願っております。

(県央 星野 道雄 記・写真)

2024年3月定例そば打ち開催報告

日時：2024年3月18日(月)9時30分～12時30分 場所：海老名国分コミセン 多目的室

3月になり三寒四温で徐々に暖かくなってきています。3月18日じゃお県央で定例そば打ちを開催しました。

2か月ごと、奇数月に開催しています。メンバーは7～10人で一人300g(そば粉240g、中力粉60g)の二八そばを全員が打ちます。今回は購入先が移転したため、北海道産そば粉から、信州産そば粉に変えて打ちました。特に違いは感じられませんでした。毎回ほぼ同じメンバーで4テーブルに2名が順番に水回し⇒延ばし⇒切り⇒茹でる迄行いました。延ばし工程で丸く延ばしてから麺棒に巻き付けて四角にするのがまだまだ難しく苦勞していました。出来上がったそばの内半分は持ち帰り、残り半分は調理室で試食して出来栄を評価していました。



今回はそば打ち道具5点セットを紹介します。



左上から右回りに

- ① こね鉢 そば粉に水を混ぜてこねる
- ② のし板 こねたそばを延ばす(台)板
- ③ めん棒 延ばすのに使う棒
- ④ こま板 そばを均等に切る道具
- ⑤ 包丁 そばを切る包丁

参加者：鈴木(寿)・坂井・小林(嘉)・石川・新井・山口・福山 計7名

次回：2024年5月20日(月)9:30～13:00

(県央 福山 信二 記・写真)

自然豊かな公園でテニスを楽しむ

今回はJリーグサッカーの話題から始めます。J1昇格を果たしたFC町田ゼルビアは、この記事の執筆時点では、3勝1分けで首位にいます。うれしいことに「オリジナル10」と呼ばれる名門を押しよけての快走です。そんなFC町田ゼルビアの本拠地は「町田GIONスタジアム」。町田市立野津田公園内にあり、そこには、スタジアム以外に、球場、グラウンド、テニスコート、芝生広場、バラ園など、様々な施設があり、市民の憩いの場となっています。



普段、多摩・田園の「健康テニス」は町田市成瀬にある「成瀬クリーンセンターテニスコート」を利用しています。近くて便利なのですが、利用者が多くて、抽選に外れてしまい、コートが確保できないこともしばしば。そこで、いつも予約に苦勞するリーダーが目をつけたのが「野津田公園北テニスコート」です。市の中心部から離れているので、空いているのです。

名前に「北」と入っているように、旧バラ園が移転した跡地に新設され、昨年4月21日にオープンしました。

私も今回が初めてでしたが、駐車場も近く、木々の緑に囲まれた美しいコートでした。周囲に設けられた花壇には季節の花が咲き、ベンチも屋根付きでゆったりしています。新しいので、コートコンディションも抜群です。最も、私にコート进行评估できる腕前はありませんが……。

3月18日の参加者は10名。残念ながら1名は怪我から復帰したばかり、プレイは無理だったようで、少し見学して帰りました。残った9名で、2面のコートを使い、ゆったりと練習と試合を楽しみました。

春とは言え、風の強い日で、強い風が周囲の木々を揺らしています。時折「ゴーッ」という音とともに強い風が吹いて、落ち葉やコートの砂が吹き付けてきます。正面からの風の強さに顔を背けたこともありました。

このような日は「風」をミスの言い訳にできます。

ポイントを失った時は風のせい、ポイントを取った時は自分の腕を理由にするご都合主義です。実際は、このコートは高い木々に囲まれた、すり鉢状の地形の底に位置しており、風の強さの割にはボールへの影響は少ないと感じました。

後で車のメーターを見たら、我が家からは7.6 Km。近くはありませんが、時には自然を眺めながらのテニスも良いものです。まだ、蕾でしたが桜もありました。暖かくなったら、プレイを終えてからコートの周囲でお弁当をひろげるのも楽しそうです。



(多摩・田園 竹内 純一 記・写真)

多摩・田園「クラシック・コンサート鑑賞会」

3月17日、東芝フィルハーモニー合唱団 第27回定期演奏会を鑑賞して参りました。

当日のプログラム

高田 三郎（作詞：高野喜久雄） 混声合唱組曲「水のいのち」全5曲

モーツァルト 「レクイエム ニ短調」8章14曲 K626（遺作）

死者のためのミサ曲、あまり好んで聴く曲ではないが以前カラヤンのLPを持っていました。死の床にあり未完の部分
を弟子が補筆したと言う、私は潜入観念からか全てではない
が正直なところ何となくモーツァルトっぽくないと思っている。
レクイエムの敢えて好みをとえばヴェルディ、モーツァ
ルト、フォーレの順でしょう。ベートーヴェン、ブラームスは
まともに最後まで聴いた例はありません。余談であるが、何時
のオリンピックだったかフィギュアスケートでテーマ曲に使
われていて私としては何とも奇異な印象が残っている。確か
安藤美姫選手だったような？ 若しすると勘違いかも知れませんが・・・



さて、会場である大田区民ホール「アプリコ」は蒲田にあり、ホームに降り立つと蒲田行進曲が出迎えてくれた。駅を出ると全く様変わりした周辺に戸惑いながら・・・ 何と会場は松竹キネマ蒲田撮影所そのものの跡地にあった。実に65年ほど前になるがこの辺りには名画を低料金で上映する映画館が幾つかあって、そんな所に足繁く通い映画までクラシッカー辺倒になってしまった経緯がある。親戚が日吉と鶴の木（久が原）にあり東急沿線に居住していた学生時代の頃のことである。

当日の好天に気分も上々で鼻歌交じりの蒲田行進曲にキネマの天地が蘇り、一方レクイエムと言う取り合わせの奇妙な気分に入りながら時間までその辺りを散策した。去来する思い出の中にコート了新調する筈だったお金がレコードに化けたのがある。初めて買ったレコードはB・ワルターの田園だった。当然再生装置などある筈もなく顔見知りになった「スワン」と言う名曲喫茶に預けて、寒さに耐えそれでも優雅な気分に入ったものである。

演奏の東芝フィル合唱団を聴くのは初めてであるが、コロナ禍の情勢により2019年第26回から4年半ぶりの開催とのことで気合の程の雰囲気伝わってきた。音響に映像が伴ったことでオペラを通して声楽へ趣向が向いていることもありこちらも熱くなっていた。以前プライベートの室内楽鑑賞会の舞台裏を手伝っていてピアノのイェルク・デームス氏が会員の聴衆を評して温かいと表現されたことを思い出す。共演の管弦楽部は何時もの東芝フィルハーモニー管弦楽団で、実は多摩・田園の席はヴァイオリンパートの方からのご厚意で確保されています。今日はホルンとフルートの出番がないのが残念。（何故って？モーツァルトに聞きたいものです） 合唱部との息も合って改めてブラヴァー！です。

アンコールも余韻を残す選曲に演奏も素晴らしかった。

モーツァルト：「アヴェ・ヴェルム・コルプス」キリストへの感謝を歌う賛美歌、高校時代を思い出す。

東日本震災支援ソング：「花は咲く」 能登のこともあり改めて心に響き渡った。

席を後にする来聴者の反応が何時もとは違う様に感じたのは私だけではないでしょう・・・。

（多摩・田園 山脇 哲郎 記・写真）